



『育児』は『育自』から

校長 海 頭 巖

もう3週間。いやいや、まだ3週間。過ぎた時間のとらえ方は人それぞれですが、新学期がスタートして24時間×21日＝504時間は少なくとも平等に過ぎていきました。

入学式の翌々日、新入生には試練の大雨。幼稚園バスで送り迎えをしてもらうことに慣れた子どもたちにとっては、さぞかし辛かったはずですが。下校指導で数人の子どもたちと一緒に帰る道すがら、「校長先生、長靴に水が入った！ぐちゅぐちゅ！！」と泣きそうな顔で訴えてきました。長靴の水を出し、靴下を絞ってあげると、何となく機嫌の良さそうな顔になりました。「ありがとう」と言えなかった子どもに「あれ、なんて言うのかな？」と問いかけると、何と笑顔を添えて「ありがとう」の言葉が返ってきました。大雨にもかかわらず私の心は晴れやかになりました。二度、そんなことをし、三度目もあるかと思いきや、長靴の中で鳴る「ぐちゅぐちゅ」という音を楽しんでいるかのようで、私も長靴の中の音に合わせて一緒に心が弾みました。そんな時、ふと宮沢賢治の詩『雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫なからだをもち・・・』の一節を思い浮かべたのです。

入学式の式辞で、子どもたちに3つのお願いをしました。

一つ目は、あいさつや返事が元気よく言える子になりましょう。

二つ目は、「自分」のことは、自分でできる子になりましょう。

三つ目は、みんなと「仲良く」しましょう。

そして、保護者の皆様にも次のような話をしました。

「どの子もそれぞれに良いところをいっぱいもっています。そして、未来に向けて無限の可能性を秘めています。しかし、それらは、どの子も一様ではありません。芽が出るのが早い子、温かな大地のぬくもりをじっくり受けてから芽を出す子など、いろいろあるから、その子なりのかけがえのない個性が生まれてくるのではないのでしょうか。金子みすゞさんの詩にありますように、子どもたちは、『みんな違って、みんないい』のです。必ず、その子らしい芽を出し、精一杯の美しい花を咲かせます。子どもの可能性を信じ、その子らしい成長を楽しんでください。子どもたちは、これからいろいろなことに挑戦し、その中で試行錯誤し、そして、いくつもの失敗を繰り返しながら、自立に向けて『生きる力』を身に付けていきます。（略）・・・これからも『育児』はまだまだ続きます。『育児』で大切なことは、保護者の方一人ひとりが、自分を磨き続けること、自己教育力をつけていくこと、言い換えるなら『育自』が大切です。私のような孫のいるおじいちゃんさえも、『育爺』と共に、やはり『育自』が大切だと思っています。お互い『育自』で『生きる力』を身につけていきましょう。・・・（略）」と。

考えてみると、6年間の小学校生活は、52560時間です。もう500時間余りが過ぎました。残りは52000時間余りです。残りの時間が『0』になったとき、小学校を巣立っていきます。それまでに、親や教師をはじめとする大人たちが何の種をまき、子どもたちがどんな栄養を吸収し、どう育っていくのかを考えると、責任の重さと『育自』の大切さを一層強く感じます。